

スロ～なニュースレター



協会活動 ● いろいろ報告

報告 平成24年6月16日(土) 第9回総会を開催しました。

第9回総会を松阪農業公園ベルファームのレクチャールームで開催。全ての提案事項が承認され、現在、役員15名で24年度の事業計画を進めています。

●平成24年度計画 事業名

事業名	事業内容 / 予定人数
①食農教育、環境教育	環境保全活動と地域とのつながり作り 食農教育・環境教育の勉強会 具体的な事業:池干しと外来種の駆除の調査研究・農業塾 /1,000人
②地域資源の地域循環を推進	廃食油・古紙等をリサイクルする仕組みや自然・生物エネルギーの調査研究 具体的な事業:廃食油の回収、BDFの活用 /500人
③地域農畜産物の企画開発を促進	食農教育と結びつけた加工品の学習 具体的な事業:農業塾と関連させた事業 /100人
④緑育活動事業	植樹、どんぐりプロジェクト、キャンドルナイト等 /500人
⑤地域産業調査事業	地域のNPOとの連携を模索する費用 /50人
⑥研究会事業	法人会員を対象とした研究会など /20社
⑦情報誌・出版物	報告書、ニュースレター発行、イベントチラシ発行 /500人

+生産+食【食文化を見直す活動】

「農業塾」



平成24年9月スタート / 松阪農業公園ベルファーム

農業を学んでスローライフを。



農業を通して、楽しく潤いのある家庭生活を構築し、地域づくりに貢献するとともに、三重スローライフ協会の活動目的を共通意識に持って参加者同士の親睦を図ることを目的に、三重スローライフ協会「農業塾」を開催することになりました。

第一期(平成24年9月～平成25年8月)は21名の受講生(29歳～89歳と年齢の幅も広い)で始まりました。9月1日に、開講式を行い15名の参加のもと、大原理事長の挨拶から始まり、第1回目の農業塾を行いました。

農業塾は、3時限の講座を持っていて、3名の講師(大原興太郎理事長(農学博士)、藤田育美理事(三重県農業大学校指導職員)、森川茂幸事務局長(農学博士)が担当します。1限目は大原理事長の講義、2限目は森川事務局長の講義、3限目は実習で藤田理事と森川事務局長が担当し実践農場(松阪農業公園内)で農作業実践を行います。

各月1回(第1土曜日または第3土曜日の午前中)の開催で、1年間で12回の講座を持つことになります。

今年のテーマは、秋冬野菜(9月1日)、ネギ類(10月6日)、土と肥料(11月3日)、正月飾り(12月1日)、暮らしと野菜(1月19日)、イモ類(2月2日)、ウリ科の野菜(3月2日)、ナス科の野菜(4月6日)、コンパニオンプランツ(5月4日)、マメ類(6月1日)、旬の野菜(7月6日)、野菜の病害と防除(8月3日)です。

会員の皆様で、この「農業塾」に興味・関心がある方は、インターネットで「三重スローライフ協会農業塾」を検索してください。ブログでこの農業塾に関するいろんな情報を発信しています。(M)



<雑感>



最近、食卓に季節感がなくなるとよく言われています。日本の食生活は季節の野菜と切っても切れない関係がありました。四季に応じた旬の野菜が食され我々の食欲を満たしてくれていたのです。それが品種改良や栽培技術の進歩という名の下で、旬をなくした野

菜や自然に逆らった野菜栽培が発達してきました。そこで作られた野菜は本当に安全なのでしょう。

旬をなくし、自然から見放された見かけのよいきれいな野菜は、本当に我々の健康を支え、生活活動のエネルギーをもたらしてくれているといえるでしょうか。最近の多くの野菜はそれが持つ栄養素を減らし、その代わりに発がん性の強い硝酸態窒素(さらにシュウ酸)の含量が高まっていると言われています。

命をはぐくみ、健康を守ってくれる農産物が、我々の期待を裏切れない状況にあります。消費者の旬を無視した要求と、それに応える農業生産者の利益を追求する活動を、もう一度見直さなければならぬ時期にきていると思います。(M&F)

スローな談話会 ● 開催報告

食の大切さを学び、様々な角度から検証することを目的としています。

「継続は力なり」を信じて、
偶数月は松阪農業公園ベルファームで、
奇数月は津の豊里ネオポリスで談話会を続けています。



	話題提供者	テーマ	参加者数
4/13(ベル)	板倉紀人	生命を育む水について	8人
5/11(ネオ)	右田嘉次	炭焼きの意義とその復活に取り組んで	11人
6/8(ベル)	有滝和敏	これまでの飲食業務経験を通したモーアンドブーテの取り組み	7人
7/13(ネオ)	佐久間麻里	ヨガとの出会いー心身の健康づくりに取り組んで	12人
8/24(ベル)	大原興太郎	ポルトガルの農、食、街づくりから学べるもの	12人
9/14(ネオ)	前田勝廣	無農薬清浄栽培による農業を推進	12人
10/12(ベル)	脇谷愛	ベルファーム農家市場の挑戦と課題	9人

(ベルはベルファーム開催、ネオはネオポリス・津の開催)

4月から10月までの話題提供者とテーマ、参加人数は表の通りです。

話題提供者はスローライフ協会とベルファームに係わる人からなっているのですが、毎回充実したやり取りがあって世話役の多少の苦勞も報われて余りある会合になっています。食と農から環境に係わる話も増えてきました。折に触れ、参加者の感想をホームページにも載せています。

ベルファームではこのところ店長クラスのスタッフの取り組みや思いを聞く機会になっています。そんな苦勞があったんだとか、そのような考えで運営されていたのか、とかパートさんにも聞いて欲しい内容もありますが、開催が夜という限定などがあり仕方ないところです。

ネオポリス開催では、30歳前後から80歳近い年齢幅があるけれど、すぐさま一体になった議論が始まります。特にネオポリスでの開催は夕食を一緒にすることもあり、打ち解けやすくなっているのかもしれない。南伊勢町から毎回数人で来てくれます。

その中で二つの報告がとてもユニークな取り組みでした。一人は80

歳に近い右田嘉次さんが、炭の効用と炭焼きの復活に取り組む思いを語っていただきました。そして、もう一人は前田勝廣さん。銀行を退職されてゆかりのある南伊勢町に来られて、中野啓二さんの農作業支援を得て、有機無農薬のお米作りに取り組まれました。当日の夕食もこの無農薬米でいただいておいしかったのですが、インターネットを駆使されて、成苗作りの農家を探して苗を確保したり、雑草の管理に苦勞した話など盛りだくさんで、同じ南伊勢町の指導農業士でもあった東定也さんや野田昌巧さんも、「まだまだ頑張らなあかんあー」と共感しておられたのが印象的でした。この話は女性たちにも自分の持ち場などで自分が何ができるのか、自分の生き方の問題として理解されていたのがうれしい反応でした。

人は人との出会いによって、学び、感動し、自分を変えていくきっかけにもなります。自分の経験を話すことが人の刺激につながったりもします。そのような場を引き続き提供していきたいと思っています。

(0)

天習+学【環境「緑育」活動】環境イベント『くるくるフェスタ』開催

第6回キャンドルナイトINベルファーム 平成24年9月15日(土)

今年で6年目をむかえるキャンドルナイト。使い古しの食用油を使ってろうソクを作り、その灯りでコンサートを開催。

地球温暖化防止活動推進センターの皆さんによる環境学習会や、綺麗な環境でない星空も見えないことから松阪天文クラブの星空観察会を開催。当日は100名の方が参加されました。今回のコンサートは親子でライブを行って見えるRAMOさんが登場。間伐材のヒノキで作られたギター演奏と、森林が抱える環境問題についても語っていただきました。

RAMOさんは自閉症の息子さんお二人を持つお父さん。長男(楽守さん)と自閉症への理解を深めてもらう為に、全国をライブされています。キャンドル灯りとRAMOさん親子の歌声で、ガラスハウス内は暖かい雰囲気にも包まれていました。



当初キャンドルナイトは家庭で廃棄される食用油の回収拠点をつくり、再利用できることを皆さんに知ってもらうことを目的としてスタートしました。同時は家庭で使った後の油の処理は、固めるテンプルやそのまま流しに廃棄されている実例が報告され、資源としての再利用の必要性や環境に大きな付加を与えることも学習しました。こうした地道な活動もあって、現在廃油回収登録会員数は175名、年間1.5トンの廃油が回収されています。この廃油はBDFに精製されて、発電機やトラクターの燃料として再利用されています。

このキャンドルナイトの活動については一定の成果が達成したことを主催者のコープみえさんとも確認しながら、自然エネルギーや環境活動に繋げる活動として、今後新たな取り組みへと発展させていきます。

(1)